

深イ～話！

No.108

——鈴木秀子「人生を照らす言葉」より抜粋——

ある時、一人の母親が私の元にやってきました。

成績優秀だった息子さんが突然学校に行かなくなったという相談です。

ひと通り話を聞き終えた私は、

「その子は本当に親孝行な子ですね。お母さんに何かを気づかせようとしているの
でしょう。」と伝えました。

すると、母親は途端に陰しい表情を浮かべ、

「私たちがこんなに辛い思いをしているのに親孝行な子なんて・・・」と怒りながら帰ってしまいました。

その母親が再び訪ねてきたのは一年ほど経った時です。そして、

「あの時は怒ってしまいましたが、親孝行の子だという意味がようやく分かりました」

としみじみと話し始めました。

母親は息子さんがなぜ学校に行かなくなったのかを考えているうちに、

「子供の中に何か吹っ切れないものがあるに違いない。もしかしたら、それは親に対する反発なのかもしれ
ない」ということに思い至りました。

父親と二人でよく話し合う中で、お金さえあれば楽な生き方ができると考えたり、世間的な目ばかりを気
にしたりして生きてきたことが、いつしか子供の心を傷つけてしまったことに気づいたといいます。

両親が「息子は自分で時間の過ごし方を選んでいるのだから、それを尊重することにしよう」

と考えるようになった頃から、息子さんの性格が明るくなり、親子で普通の日常会話ができるようになりま
した。そして最後には

「僕はお父さん、お母さんの子供に生まれてよかった」という言葉を口にしたというのです。

これは両親にとって全く思ってもみなかった一言でした。

「私たちはあの子が普通に学校に行っていたら、決してわからなかった大きな喜びを体験することができ
ました」そう語る母親には明るい笑顔が戻っていました。

ジブランは「苦しみについて」という詩の中で、このように綴っています。

苦しみは、そのほとんどが自ら選んだもの。

苦しみは、あなたのなかの医者が、あなたのなかの病んだ自分を治すために出す苦い薬。

その医者信じて、出された薬をなにも言わずに飲みなさい。

この両親も息子さんの不登校という人生のどん底で、それが実は大切な良薬であることに気がついたの
です。



私たちは人生の中で様々な出来事を体験しますが、それをどのように受け止めるかはその人次第です。誰かによって不幸に^{おとし}貶められたと感じることもあります。幸、不幸を決めるのは、往々にして自分の勝手な都合や思い込み、決めつけであることが少なくありません。

私が講演でよくする話があります。

ある土地に嘆いてばかりのお爺さんがいて「どうして、そんなに泣いているのですか」と聞いたところ、「息子が干物を売っているが、こんなに雨が降ったら干物が腐ってしまう。それを思うと心配で心配で」という答えが返ってきました。

翌日は、朝からさわやかな青空が広がっていました。ところが、お爺さんはまた泣いています。娘が傘屋を営んでいて、これでは傘が売れなくて可哀想だと言うのです。

晴れの日には晴れの日、雨の日には雨の日の恵みがあります。

にもかかわらず、お爺さんはそのことに気づくことなく、いつも不満の材料ばかりを見つけていました。自分で自分を悲しみに導いてしまっていたのです。

もちろん、これはお爺さんだけの話ではありません。私たちも気がつけば同じようなことを繰り返しています。状況を受け入れて心豊かな人生を生きるには、どのような環境にあらうとも、そこにある「恵み」を見抜く目を持つことです。

そのためには、出来事を別の視点から捉え直す習慣が必要になってきます。

会社で苦手な上司や同僚がいたとしましょう。しかし、マイナスの部分に目を奪われることなく、「その人によっていま自分は磨かれている」「成長させられている」「苦手なタイプだけど、自分には^{かな}適わないこんなすばらしい一面もある」と考え方を切り替えれば、それは恵みとして受け止めることができます。

大切な肉親と死別したとしても、時間とともに亡くなった人からいただいた愛情や懐かしい思い出を力に変えていくことで、より豊かな人生が開けてきます。自分の中に苦しみや悲しみを乗り越える力が与えられていることに気づくチャンスとなります。

人間にとって心の奥底から湧き上がる満足感は、このように苦しみや悲しみを乗り越えて喜びに変え、そのことによって自分の成長を実感するときに生まれます。

人が成長し続けるために、苦しみや悲しみは死ぬまでなくなることはないでしょう。しかし、それはただの苦しみや悲しみで終わるものではなく、同時に大きな喜びを含んでいることを決して忘れてはいけません。

私が言う恵みとは決して特別なものではありません。恵みは私たちの生活のどこにでも満ち溢れています。問題はそのことに気づくだけの感性があるかどうかです。元気に過ごせることも、食事ができることも、さらに言えばこうして生かされていること、息ができること自体が何事にも替え難い恵みなのです。

普段から当たり前のことに感謝する訓練ができている人は、苦しみや悲しみの渦中であっても、きっと喜びの種を発見することができると思います。

